



Raymond Rohrer & Shihata Organization Inc. present BUSTER KEATON in THE NAVIGATOR (1924)

ハロー・キートン公開第2弾
7月28日(土)ロードショー

有楽町
日劇前
ニュー東宝
シネマ2 (571)
1947

■上映時間表(連日)

11:00 12:45 2:30 4:15 6:00 7:45

特別観賞券500円<一般700円の処>好評発売中!

■団体観賞申受中/メイジャー企画 (543)6093

キートンの
白人酋長
★併映短篇
THE PALEFACE

夢をみるような幻をみるような...
見つけた!何が?!!
SOS...豪華客船ナビゲーター!!
ふたりぼっちの大漂流
真夜中の幽霊騒動/人魚人種襲来!
待望の第2弾!
奇想天外な海底工事/爆笑が爆笑を呼ぶハロー・キ

監督・主演バスター・キートン
キャサリン・マックガイアー
フレデリック・ブルーム
ノーブル・ジョンソン



海底王キートン

レイモンド・ローハワー提供
フランス映画社配給

共同監督ドナルド・クリスプ 撮影エルジン・レスリー、ハイロン・ワーク 美術フレッド・カプリ



◎解説と物語

「ハロー／キートン」第2弾、「海底王キートン」は、豪華客船ナビゲーター号にあふれるギャグを積みこんで、太平洋の洋上から海底深くまで、圧倒的な笑いの渦で揺り動かす名作中の名作。

ナビゲーターとは、「航海に長じた人、海洋探険家」といった意味だが、何たる運命のいたずらか、この500人乗りの豪華船に乗っているのは、操縦のソの字も知らないロッド・トレッドウエイ（バスター・キートン）ただひとり。と思つたら、もうひとり、彼がかねてから想いをよせている令嬢キャサリン（キャサリン・マックガイアー）が、乗りあわせているではないか！

それまで、箸より重いものを持つたことのない二人は、何から何まで大がかりな巨大な幽霊船で途方に暮れるばかりだが、そこで一躍、愛する女性のために奮起して、粉骨砕身、ない千エでも無限にしぼりだすのがキートンの面目。

数週間後に陸が見えてくる。やれ助かつたと思うと、それはなんと人食人種の島だ。そのうえ、船底が浅瀬にぶつかって浸水のダブル・ピンチ！潜水服に身をかためたキートンが海底で大奮戦する間に、愛するキャサリンの命は風前の灯……

キートン・プロダクション長篇第4作の「海底王キートン」は、「セアン・チャンス」に先だつて1921年に製作された。共演女優のキャサリン・マックガイアーは、同年の「キートンの探偵学入門」にひきつづいての2度目の共演。新版音楽は「セアン・チャンス」と同じクロード・ホーリングが、またも愉快な曲を作曲・指揮している。

併映短篇の「白人酋長」（1921年製作は、インディアン部落に昆虫採集に行ったキートンが、火あぶりにされかけるが、結局インディアンとともに悪徳石油業者をこらしめる痛快な一篇。）（上映時間82分）

◎私の大好きな傑作「海底王キートン」

「海底王キートン」は、「ハロー／キートン」シリーズ第一期に公開される三本のバスター・キートン喜劇の中で、私がいちばん大好きな、傑作である。それは、いちばんオーソドックスな形で、バスター・キートンの映画の面白さを、たんのうさせてくれる作品だからだ。

例によって、自分は絶対笑わない、喜劇的行動主義者キートンは、漂流する無人の巨大な船の中で、自分の大へん日常的な生活をおしとうすために悪戦苦闘し、あるいは、潜水服に身をかためて本当に水の中にもぐって、陸上にいる時と全く同じ身の軽さで、奇想天外な冒険をくりひろげる。もちろん、これも例によって、愛するただ一人の女性のために、である。

そして、そういう、きわめて日常的なことを、実に不思議な日常的でない世界で、平然とやってくるのける、というキートンおとくいのガンバリが、「海底王キートン」では、特にひとときわ壮大でみごとに、生彩をはなつのである。これはいつたい、なぜなのであろうか？

「海底王キートン」は、バスター・キートン自身の監督作品であるが、同時にもう一人、ドナルド・クリスプという共同監督がいる。この人は後にジョン・フォード監督の名作「わが谷は緑なりき」で、あの炭鉱夫一家の意志的な父親役を演じてアカデミー助演男優賞をもらった名優である。そして「海底王キートン」製作当時は、名匠デヴィッド・ワーク・グリフィス門下の映画監督としても、知られていた。

このD・W・グリフィス監督とは、アメリカ映画の父、と呼ばれた、世界でいちばん最初にクロロス・アップを映画で使い、画面と画面をつなげてフィルムでドラマを語ることを創始した、伝説的な巨匠である。その作風は、オーソドックスな、スケール

「海底王キートン」 白井佳夫（キネマ旬報編集長）

の大きい堂々たる映画作りにあった。その巨匠グリフィス門下のドナルド・クリスプを共同監督に迎えることで、「海底王キートン」は、キートン喜劇中でも最もオーソドックスな、堂々たる正確なカメラの眼を、持つ作品になっていたのである。実際の汽船を買い切つて、これを背景に使い、カメラを本当に海中や水中に持ちこんで撮影をおこなう、という、いわば本物主義の記録映画のような厳密なリアリズムの上に、この映画のドタバタ・シーンは、成り立っているのだ。

第一期三本のキートン映画の中で、製作いらい半世紀に近い歳月に洗われているにもかかわらず、この映画がいちばん堂々たる力を持って現代に生きかえってくる理由が、そこにある。そのおほかで、正統的な映画としての魅力に、私は思わず涙ぐんでしまう位に、感動してしまつた。

海底王キートン

レイモンド・ローワー提供 ■ フランス映画社配給
BUSTER KEATON in THE NAVIGATOR
監督・主演バスター・キートン

ストーリー ● クライド・ブルックマン、ジャン・ハベッツ、ジョセフ・ミッチェル
共同監督 ● ドナルド・クリスプ / 撮影 ● エルジン・レスリー、バイロン・フー
美術 ● フレッド・ガブリー / 新版音楽 ● クロード・ホーリング
出演 ● キャサリン・マックガイアー、フレデリック・ブルーム etc.

